

令和6年度 第2回ナセBA運営協議会議事録

1.開催日時

令和7年1月28日(火) 午後3時～午後5時

2.開催場所

ナセBA1階・体験学習室

3.出席者(8名出席)

(委員)

我妻 仁(会長)、西山 まなみ(副会長)

畑田 秀将、安部 文子、佐藤 繁、細谷 信義、田中 明子、吉澤 恭子

(事務局)

曾根 伸之、渡部 洋己、設楽 由加利、青木 昭博、遠藤 朋香、齊藤 かおり、

福石 敏史、宮澤 崇士、花田 美穂

4.開会

5.理事長挨拶

本日は、令和6年度の事業実施状況及び令和7年度の事業案の2点について、報告並びにご説明を申し上げます。令和6年度の4月から12月までの施設の利用状況を概括すると、図書館の来館者は前年度比99.7%の13万406人、学習室は前年比112.9%の5万9,917人と多くのご利用をいただいた。また、図書の貸出冊数は前年比95.5%の25万7,857冊、市民ギャラリーの利用は前年比87.1%の3万3,644人だった。入館者数は例年並みだったが、市民ギャラリーの方でやや減少傾向であり、貸出冊数は増加の余地があると考えられる。後ほど評価と課題、対策について詳細な説明があるので、次年度に向けて質問や意見をよろしくお願いしたい。

新聞等にも掲載されていたが、文部科学省が公共図書館の運営基準を見直す方針を固めて、近く有識者会議で議論を始めると報じられていた。有識者会議のポイントは大きく4点あり、「地域社会の活性化に図書館の果たす役割と必要な体制の提示」、「公共図書館と学校図書館の課題を一体的に議論し、運営の充実策を探る」、「読書バリアフリー法や社会の変化

を踏まえた図書館のあり方を検討」、「地域の書店との連携策を議論」ということで、2026 年度にも新たな基準を適用するということ。このような国の基準検討はある程度のスパンで行われており、これまでの経過を振り返ると、平成 24 年の 8 月にも報告書が出ていた。前年に東日本大震災が発生したということもあり、災害に備えた危機管理マニュアルの作成が必要などと記載があった。他にも地域の課題解決に向けた多面的観点からの情報の提供や、学校教育を支援するといった記載もあり、今日の図書館の利用状況に照らすと、各学校等ではすでに探究型の学習というのはたくさん行われており、また各地域でも産業界の自発的な取り組みの他、地域おこしに向けての取り組みということとも関係が深いと感じる。また紙媒体と電子媒体の組み合わせによるハイブリッド図書館という提言がそこには載っており、今日では、ホームページの充実や SNS による発信、インターネットを介したレファレンスサービスなど市民にとって欠かせない図書館情報活用の一部ともなっていると感じられる。このように、今現在新たに進められようとしている国の公共図書館の役割基準検討の方向性についても、米沢の実情と照らし合わせながら、米沢市に適した方策を見つめながら適切に検討していかなければならないと思っている。本日は、そのようなところも含めて、様々な角度からナセ BA の今後についてご意見を頂戴したいと思っている。

6. 会長挨拶

年が明けて新しい年になったが、今年一年また新しいことに挑戦しようとする時期なのか 1 月の中旬から下旬が通信教育の契約数が一番増える時期だそう。年を取るとどうしても頭や考え方も固くなるところもあるが、巳年に因んで柔軟さを持って、今年 1 年生きていきたいと思っている。時間も限られているが、積極的なご意見ご質疑をお願いする。

7. 協議

(1) 令和 6 年度事業実施状況について

事務局から資料に基づき説明。【資料 1】【資料 2-1】【資料 2-2】

(委員)

子どもたちをいろいろな公共施設へ連れて行った時、静かにできない子も多くなっているということに担任が頭を悩ませていたこともあり、幼稚園で年長児が公共の場のマナーを学ぶ場として図書館を利用させていただいた。子どもたち自身が図書館の利用方法を知れば、もっと絵本に興味を持ち、また家庭にも図書館利用が広がっていくのではないかという発想

で計画した。図書館では参加した子どもたちが一人 1 冊ずつ本を選び、団体貸出を利用して本をお借りした。子どもたちが選んだ本は、私たち大人が考える心が揺さぶられるような物語絵本だけではなく、様々な種類の絵本や図鑑を選んでいて、自分の興味の赴くままに図書館を利用している姿を見てとてもうれしく思った。

借りた本は、家庭で話題にしてもらいたいという思いもあり持ち帰らせた。全ての本が幼稚園に戻り図書館への返却も完了したが、借りた本を家庭に持ち帰らせても大丈夫か？

(事務局)

団体貸出を利用された団体さんにお任せしている。図書館としては、返却がきちんとされれば問題ない。読んでいただけるのが一番の目的なのでありがたいと感じる。

(委員)

借りた本はリストを作成し誰がどの本を持ち帰ったかしっかりと記録した。図書館の本を持ち帰ったことで、随分家庭の中で反響があったようで、幼稚園で図書館を利用したその日に、家族みんなでナセ BA に行ったという家庭もあったそうだ。

幼児や小学生など一人で図書館利用ができないためなかなか本を借りる機会がなく、それが数値にも表れているという話が事務局からあったが、幼稚園連合会の園長会ではほとんど図書館に子どもたちを連れていってくださいと図書館利用の方法なども伝えている。図書館からも各幼稚園・こども園・保育園へチラシでも構わないので、こんな反響がありましたといったことも含めたお誘いを出していただければとてもうれしいと思う。

(会長)

小学校が 11 校見学に来たということだったが、見学に来たのは何年生でどういった単位での利用なのか。また、本を借りる際は団体貸出なのか個人貸出なのか。

(事務局)

今年度、団体貸出利用と図書館の見学についてのご案内を市内小学校へお送りしたところ、団体貸出の件数や見学件数も増加した。

小学校の見学は、市で採用している小学 2 年生の生活科の教科書の単元に「みんなでつかうまちのしせつ」の具体的な施設として公共図書館が上げられている関係もあるのか、小学 2 年生の利用が多い。見学は大体 1 時間くらいで、図書館職員からの説明と案内の後、学校によっては貸出を行う場合もある。児童が本を選び団体で借りる場合や、事前に学校と利用者カード申請のやり取りをして利用者カードを作成後、個人で借りる場合もある。

(委員)

冬場など高齢者の方からはコミセンで開催する講座に行きたくても交通手段がないため参加できないという声を聞く。地区の方では公共バスもなくなり、デマンドタクシーの利用が必要となっている。デマンドタクシーは1回の乗車で500円かかるため、病院などの必要な場所が優先される。そうするとますます図書館などに行けなくなるといった現状がある。

月に1回移動図書館アタゴオルが各地区の巡回先を訪問しているが、月1回でも少ないという声を聞く。巡回先に誰でも利用できるような場所を増やしたり、停車時間を少し伸ばしたりすることで冬場の利用も増えるのではないかと感じる。また、コミュニティーセンターは市内すべてを巡回した方がいいのではないかと感じる。常人がいるところに巡回することで自然と目に留まる機会が増えるのではないかと感じる。学童なども巡回先によいのではないかと感じる。

(事務局)

来館が難しいという方も多くなっている中、そちらへ出向くアウトリーチを大事にしたいと模索している。現在アタゴオルは市内約70か所を巡回しており、スケジュールも空きがない状態。発想の転換が必要だと感じている。現在市内のコミュニティーセンターで巡回していないのは地元の中部コミセンと南原コミセンのみ。南原コミセンへの巡回は後ほど相談させていただきたい。また学校関係の巡回も増やしたいと考えている。ナセBAに来る公共バスの路線は少しずつ増えてきているようだが、その件についても市へ要望として伝えたい。

(委員)

今回初めてネットから本の予約をしたが、40人も予約が入っている本もあるようだ。話題の本も借りるころには話題がなくなったりする場合もあるのではないかと感じる。同じ本は、1冊か2冊ぐらいしか置けないのか。

(事務局)

予約が多い本は同じ本を複数購入し、予約状況を緩和させることも行ってはいるが、出版社の団体から図書館の複本への批判の声もあるため、当館では基本的に同じ本は最大で3冊までとしている。

(委員)

伝国の杜で開催していた椿貞夫展と連携した形で、ナセBAのオープンギャラリーで展示をしていることを今回初めて知った。ナセBAと伝国の杜が連携して、郷土の作家の作品を

市民、または県内外の方にもさらに知っていただく機会として、とても充実した展示だったと改めて思った。合わせて図書館には椿貞雄コーナーの図書の設置などもあり、豊かな連携がされていてよかった。伝国の杜の展示の話にはなるが、参観者数は市内の方と県内外の方ではどちらが多かったのか。

(事務局)

博物館に収蔵している美術作品の公開の場として、ナセ BA のギャラリーを活用していることに気づいていただき感謝申し上げます。今回の展示の参観者数については、市民の方も多く来館しているが、アンケートだけを集計すると今回は関東地域からの方がいつもより多かった。

(2)令和 7 年度事業計画(案)

事務局から資料に基づき説明。【資料 3】【資料 4】

(委員)

米沢市内有効登録個人利用者数の目標値が 7,700 人となっているが、思ったより少ないと感じた。また、仕事の関係で子どもを連れて図書館へ来る機会が減ってしまった。幼稚園や学童での団体貸出利用があったら子どもは喜ぶだろうと思っている。

(事務局)

登録だけでなく実際に本を借りた人数として、米沢市の人口の 1 割を目標値としている。

(委員)

メディアや社会情勢が大きく変わる中で、利用者のニーズをどうやってつかみ、どう対応していくかは非常に難しいところがあると思う。リクエスト制度は利用者ニーズを汲む分かりやすいやり方だと思うが、その他に利用者のニーズをどのように把握しているのか。

(事務局)

図書館で開催した講座などに参加した方へアンケートを実施している。講座内容はもちろんだが、これから図書館でどんなイベントの開催を希望するか、図書館へ要望したいことなどをたずねる項目も設けご記入いただいている。また、図書館カウンター前の記載台に常時アンケート用紙を設置しており、利用者の方からご要望や図書館への思いをいただくこともあ

る。

(委員)

調べものは本ではなくインターネットを使用している子どもの様子を見ていると、これからの時代のニーズを考え、電子書籍を検討する必要があるのではないかと感じる。福島市立図書館ではすでに「福島市電子図書館」といった電子書籍を利用できるサービスを開始している。

子どもの読書活動推進計画の中のティーンズコーナーの充実についてだが、本を読むだけではなく体験型のアクティビティのようなものを取り入れるなどすると、本が嫌いな子どもも取っ掛かりを持つことができ、楽しめるのではないだろうか。例えば歴史に関係した本の VR 体験コーナーや、もうすでに実施しているような謎解きなども、読むだけではなく体験することで、子どもたちがその本の世界を深く感じるできるので良いのではないかと思った。

また今回、いろいろと図書館のことについて調べたが、宮崎県都城市の Mallmall(まるまる)という複合施設が特に印象に残った。図書館だけではなく、子どもの遊び場などもあるおしゃれな施設で、ぜひ行ってみたいと感じた。

(事務局)

はじめに、先ほどの回答の補足だが、アンケートは都度回収し、図書館で確認している。また今後市の教育委員会の方で、小学校 6 年生と中学校 3 年生全員に読書に関わってのアンケートを実施する予定であると聞いている。内容は検討中のようだが、例えば読書が好きか、最近本読んでいるかなどといった設問があると考えられる。委員からご意見があった電子書籍への子どもの意識などといった内容も盛り込まれる可能性があるのではないか。

電子書籍は米沢市ですぐに導入することは難しいが、市と相談していきたい。県内で導入しているのは東根市図書館、山形県立図書館になる。今年度から導入した県立図書館は、利用者登録があれば利用可能なので、現在のところは県立図書館の電子書籍の利用を PR していきたいと考えている。

またいただいたティーンズの体験型といったアイデアも参考にしながら、今後の事業について検討していきたいと思う。複合施設については、ナセ BA も芸術と本の複合施設ということで芸術文化の拠点になっているということを大事に考えていかなければならないと感じている。

(委員)

本のきろく通帳のシステムは図書館にしかないとのことだったが、市内の小中学校にもあれば、より読書に親しもうとする子どもが増えるのではないか。

(委員)

少子高齢化と経済や公共交通の縮小の中で、これだけの利用者を維持しており、大変ご努力されていると感心申し上げます。学習室利用が増えているということは、若い人たちのニーズに合わせ、食事が取れる場所や自動販売機を設置した効果もあるのではないか。ちょっとしたことで利用者のニーズに合わせることで利用が増えるのだということを実感した。

また、どうしても人数を集めるとか、目に見えるところの数字が目立ちはちだが、資料保管と次世代に文化を伝えるべく、データ化することや調査に来た場合に対応できるような分厚い文化総合施設としての機能を充実させていただきたいと思う。

(委員)

いつ来ても隅々まで清掃が行き届いており、素晴らしいことだと思っている。外国の施設へ行くと入り口にフラワーポッドが置かれている様子を見ることがある。例えばナセ BA の入り口に季節の花などを飾るのはどうだろうか。入り口に潤いがあり、中に入ると様々な芸術や本にふれることができる、そういった施設になるのではないだろうか。

(委員)

限られた職員で数多くの事業をされていることが改めて分かり感謝申し上げます。

図書館になかなか来る機会がない社会人の方が多いのではないかとと思っている。会議所でも、街中に人が集まるようないろいろな事業を米沢市などと一緒に実施しているが、まだまだ活性化の部分ができかねている。その中で、2 年後に商工会議所の建物をナセ BA の東側に建てる予定だが、一般市民の方も気軽に立ち寄れるような施設を目指していきたいと計画をしている。ナセ BA とのさまざまな連携もこれから出てくると思うので、ぜひこれから一緒にそういった計画作りを実施できればと思っている。

米沢駅の 2 階に商工会議所で管理しているコ・ワーキングスペースがある。ビジネスマンの電車の待ち時間などに利用いただく場所だが、ナセ BA・大学図書館・文化センターなどの学習できる施設が休館の年末年始に高校生でいっぱいだったそう。30 人くらいしか入れない場所なので、朝の 9 時前から行列を作って借り、夜の 8 時まで勉強している高校生の様子を見て、若い人の居場所作りがこれから市内にもっと必要なのではないかと感じた。

(委員)

幼稚園などから図書館のチラシを頂く機会もあるが、忙しい生活の中流れていく場合も多い。情報収集はチラシよりも SNS を活用している家庭も増えてきているように感じている。チラシは一般向けのものが多いので、Instagram など子ども向けに文章を作成したり、少しカジュアルな形で広報したりしていただくと、興味を持つ方は増えるのではないかと。また SNS だとスマホに保存できるので、申込制のイベントなどもリマインドしやすく便利に感じている。

(委員)

図書館は人を成長させる大切な施設。その時代に合うものを想像し、利用者のニーズに合わせながら利用者を増やし、図書館もアップデートしていけるよう協力していきたい。

(委員)

米沢図書館は多様なサービスを展開しているので、本や図書館好きの人たちにとっては楽しい場所だと思っているが、図書館にまだ一度も足を運んだことのない人たちが何を考えて、何を求めているのかといったニーズをどうにか把握できないかと考えている。そういう意味では、隣に新しく商工会議所が出来、BM がこれからも外へ繰り出して展開していくことで、これまで図書館に一度も来たことがない人のニーズも新しく聞けるのではないかと楽しみに思っている。

レファレンスサービスもニーズの把握に適していると考えられる。郷土資料のレファレンスは一定のニーズがあると思うが、その他の一般の利用者がどういったことに疑問を持っている、図書館はどういう回答をしたのかということを Q&A の形で公開するのはどうだろうか。気軽に図書館で質問していいのだということを伝えることで、一つのニーズの掘り起こしになるのではないかと感じた。

(委員)

みなさんの話を聞いて米沢は歴史と文化の町だということが伝わってきた。

やはり時代とともに、電子書籍が中心になってきて、若い方がスマホやタブレットで様々なものを見ている姿を見ると、もちろんそれも時代の先端で、素晴らしい進化なのだと思うが、

子どもたちが図書館から借りてきた本をうれしそうな顔で誇らしげに「こんな本借りてきたよ」と見せてくる姿を見ると、家や、園や、学校にはないような素晴らしいものが図書館にあるということを発見してくれた子どもたちに拍手を送るとともに、もっと広げていかなければならないとしみじみ思った。

(会長)

貸出人数の統計で年代別、性別のデータを見せていただいた時に、特に 10 代から 20 代にかけての女性の利用が増えているというところを見て、逆に若い男性の利用について気にかかった。若い方の利用が増えてきているということは、職員の方が特集コーナーなどでそのタイミングを見て、テーマ性や話題性があり、若い方が興味を持つような展示をされているといった日々の努力が数値に現れてきていると思い感謝申し上げる。

また複本の問題は、例えば人気の本の寄贈を図書館で募集する方法はどうだろうか。実現可能性も含めてご検討いただければ。

8. その他（特に発言なし）

9. 閉会（館長より）

日頃よりあたたかいご支援を頂戴していることに、重ねて御礼申し上げます。

最近の図書館での出来事を 2 つご紹介する。一つ目は、昨年 10 月に小学校の先生から、ベトナムから来た日本語が分からない子どもも読むことができるベトナム語の絵本はないかという問い合わせがあった。その時は所蔵がなかったが、その後購入し学校へ連絡したところ、担当の先生が喜んで借りていかれたということがあった。二つ目は視覚障がい者の案内アプリの「ナビレンス」。ギャラリーで障がいを持った方の展示が開催された際、研修会があり図書館からも参加した。実際に視覚障がいをお持ちの方が使っている様子なども見させていただき、より使いやすいように掲示するにはどうしたらいいか、どのように今後進めていくとより利用しやすい施設になるかなどについて勉強させていただいた。読書バリアフリー法など、多様化への対応が図書館も求められてきている。

外国の方や障がいを持った方なども含めて、どなたにとっても利用しやすい、そして利用しなくなる図書館であり、ナセ BA であるように考えていかなければいけない時代になったと改めて思っている。そういった視点も含めて、これからもいろいろと学んでいきたいと思うので、お気づきの点があれば教えていただけるとありがたい。